

喫煙者と非喫煙者の喫煙についての意識・認識に関する一考察

田中 拳志郎 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 中菌 伸二

キーワード：禁煙，健康，半構造化インタビュー

1. 緒言

びわこ成蹊スポーツ大学では、2003年の開学当初より学内全面禁煙である。びわこ成蹊スポーツ大学はスポーツ大学であり、スポーツや健康に関心を持っている学生が多いと考えられる。喫煙者の喫煙開始時期は、20歳前後が最も多いといわれており、本学でも大学生時に喫煙を開始する学生が多いと考えられる。そこで本研究は、喫煙者と非喫煙者とでは意識・認識にどのような違いがあるのかを半構造化インタビューによって検証するとともに、今後役に立てることを目的とする。

2. 研究方法

スポーツ系A大学喫煙者5名(A, B, C, D, E)、非喫煙者5名(F, G, H, I, J)を対象として半構造化インタビューを実施する。インタビューは2015年12月に行った。インタビューにあたっては、全被験者に事前に許可を取り、個人情報保護するように考慮した。インタビューの内容は喫煙に対する意識・認識に関する項目で構成した。インタビューの内容は記述し、録音した。

3. 結果と考察

半構造化インタビューを行うことによって、喫煙者と非喫煙者の両方でタバコに対する捉え方そのものが違うところや、捉え方は同じであるがタバコに対する認識がお互い違っていることが明らかになった。

「重いタバコに比べて軽いタバコだと吸っても大丈夫だと思いますか」という項目では、非喫煙者はタバコを吸ってはいけないもの

と考え、一方、喫煙者はタバコを吸って初めてタバコは吸ってはいけないと気づくことがあった。「タバコを吸うとストレス解消になると思いませんか」という項目と「税金を払っているから吸っていいと思いませんか」という項目では、正しい理解や間接的な影響を理解していないため、誤った認識を持っていた。ニコチン切れを補うに過ぎないことを認識しておらず、また、タバコ税よりも医療費、火事等での出費が多ことも認識していない。

タバコに対する正しい認識を持っていないことから、科学的に正しく認識するための取り組みが必要になると考える。

4. まとめ

本研究では、半構造化インタビューによって喫煙者と非喫煙者が科学的に正しい認識を持っていないことが明らかとなった。このことから、喫煙と健康についての科学的に正しい認識を持たせ、お互いの健康を考えられる取り組みが必要になる。

引用・参考文献

青柳智和(2006)禁煙のススメ. 医学出版.
磯村毅(2014)吸いたい気持ちがスッキリ消えるリセット禁煙. PHP研究所.
京都禁煙推進研究会(2007)さよならタバコ卒煙ブック. 京都新聞出版センター.
日本禁煙学会(2014)禁煙学. 南山堂.
日本禁煙科学会(2007)禁煙指導・支援者のための禁煙科学. 文光堂.
島井哲志(2009)吸う 喫煙の行動科学. 二瓶社.